

ホームページでも新和环境グループのCSR情報をご覧ください。



<https://shinwa-eco.com/>



このレポートに関するお問い合わせ先

新和环境株式会社 CSR委員会

〒169-0051
東京都新宿区西早稲田 2-21-12
TEL: 03(3208)5047

50th
ANNIVERSARY

SHINWA KANKYO GROUP
CSR Report 2025



UD
FONT

新和环境
SHINWA KANKYO



新たな時代に、新たな調和を

私たちが考える調和とは、世の中のさまざまな要素が
お互いに良い関係を築き、それが周りに広がっていくことです。
新和环境は、産業廃棄物処理事業だけにとどまらず、
再生可能エネルギー事業など、新しい調和を生み出すことに挑戦し続けます。

新和环境グループの企業理念

MISSION

目指すのは環境・経済・人の新たな調和

VISION

社会に必要とされる調和を創る会社

VALUE

誠実に取り組もう

挑戦しよう

過程も大切にしよう

分かち合おう

本質を追求しよう

CONTENTS

企業理念	1
トップメッセージ	2
新和环境のあゆみ	3
CSRマネジメント	
CSR方針	5
SDGsアンビションズの進捗	6
3事業従業員座談会	9

活動報告

産業廃棄物処理事業 での取り組み	13
再生可能エネルギー事業 での取り組み	15
有害物質等対策工事業 での取り組み	17
全社での取り組み	19
財務・非財務パフォーマンス	21

本報告書の対象範囲

対象組織	新和环境グループ
対象分野	上記対象組織における環境・安全・社会的側面の活動実績を掲載しています。
編集方針	本報告書は、当グループのCSR活動の結果をご報告することで、より多くの方々に当グループの事業活動を知っていただくことを目的に発行しています。
対象期間	2024年度 ※一部、対象期間外の活動報告も含まれています
発行年月	2025年4月

トップメッセージ



次なる50年に向けて、 グループ一体で地域とともに歩んでまいります。

新和环境株式会社
代表取締役

梁川 哲

当社は2024年12月21日をもちまして創立50周年を迎えるに至りました。これも皆様方の多大なるご支援ご鞭撻の賜物と存じ、深く感謝申し上げます。

1974年にトラック1台でスタートした当社は、産業廃棄物処理をコア事業としながら、この50年で事業領域を拡大してきました。その過程でRPFの製造、有害物質等対策としてのアスベスト対策工事業とダイオキシン類対策工事業など、さまざまな事業を展開してきました。

また、事業の拡大にともなってグループ企業も増加しました。焼却発電事業を行う(株)東海クリーン、環境コンサルティング事業を行う(株)早稲田環境研究所、電気小売事業を行うWSエナジー(株)、木質バイオマスから電気・熱・水素・炭といった再生可能エネルギーを創出する(株)バイオ水素エナジーと(株)高橋製作所。これらのグループ企業の力が、これから時代に合った事業を推進していくうえで強力なエンジンになると考えています。

今後の取り組みとして、足元では大きく三つの計画があります。まず、2025年春に埼玉リサイクルセンター第四事業所として、積替え保管施設を開設予定です。この事業所は、荷下ろし時間の短縮や受け入れ量の増加などの業務改善を目的として運営していきます。二つ目は、再生可能エネルギーの事業化です。複数の大学との共同研究で、2017年頃からさまざまな角度からの技術開発と検証を進めてきましたが、2025年中には本格的な事業化のフェー

ズへと移行させていきます。最後に、2025年末をめどに福島県で最終処分場を開業予定です。これにより、当グループ内で収集運搬、中間処理、焼却発電、最終処分、再生可能エネルギーの創出と、トータルソリューションを提供することが可能になります。

さらに、こうした事業推進のための取り組みと並行して、地域社会とのつながりも引き続き重視していきます。当社は「環境・経済・人の新たな調和」を掲げており、持続的な事業運営を行ううえで地域とのコミュニケーションは欠かせません。こうした考えのもと、これまでにリサイクルセンターのある埼玉県吉川市のほか、三郷市、越谷市、草加市、松伏町、八潮市、千葉県野田市といった自治体と災害協定を締結しています。

一方、本社を置く東京都新宿区では、地元サッカークラブのクリアソン新宿とパートナー契約を結び、スポーツ振興を通じた地域社会への貢献をめざしています。今後も、拠点を置くそれぞれの地域にしっかりと目を向け、必要な形で支援や連携を進めていく考えです。

ここまで述べた取り組みを着実に推進しながら、当社のミッション「目指すのは環境・経済・人の新たな調和」の実現に向けて、時代の変化にきちんと対応できるよう努めていきます。そしてそれが、次の50年も、当社が社会から必要とされる企業であり続けることにつながると信じています。

創立から、トータルソリューションの提供に向けて事業を拡大し、環境・経済・人の新たな調和を目指してきました。

創立

東京都新宿区に「新和土木株式会社」を創立。トラック1台からの小さなスタート。



商号を
新和環境株式会社
に変更



アスベスト対策工事業
開始

一般建設業の許可を取得翌年、アスベスト除去方法における「S、D工法」にて技術審査証明取得。



有害物質等対策
工事業へ
事業展開

大阪支店の開設



建設廃材を
再生可能エネルギーへ

(株)早稲田環境研究所と業務資本提携を締結



再エネ100宣言
RE Action
参加企業へ



吉川再生可能
エネルギーセンター
建設完了



郡山営業所
開設

(有)貴礼組を
100%子会社化



創立50周年



最終処分場
開業予定

埼玉RC第四事業所
開設予定

1974 1980 1989 2005 2006 2017 2019 2020 2021 2023 2024 2025

行徳ストックセンター
(千葉リサイクルセンターの前身)
開設



吉川リサイクルセンター
(埼玉リサイクルセンターの前身)
開設



東海クリーン稼働開始
地元企業・沼田クリーン(株)と
共同出資により設立



産業廃棄物処理事業がスタート

吉川警察署と
災害時協定を締結

三郷市と災害時協定を
締結

クリアソン新宿と
パートナー契約を締結



野田市、松伏町、
草加市、八潮市と
災害時協定を締結

吉川市、越谷市と災害時協定を締結

災害時における応急対策活動の
協力に関する協定 締結式



工場・本社周辺地域とのつながりを形成

めざすのは
環境・経済・人の
新たな調和

CSR方針

CSRの考え方

当グループは「目指すのは 環境・経済・人の新たな調和」をミッションとし、環境や社会への影響に配慮した事業推進を行い、社会に必要とされる新たな調和を創出し続けることが社会的責任であると考えています。現代社会が直面するさまざまな社会課題のなかで、「資源循環」をテーマに産業廃棄物処理事業、再生可能エネルギー事業、環境コンサルティング事業、有害物質等対策工事

業、焼却発電事業、電気小売事業などさまざまな事業をグループ全体で推進し、新たな社会的価値を創出することをめざしています。また、当グループのミッションに基づき、「品質」「環境」「道路交通安全」に関する基本理念と行動方針を策定し、従業員一人ひとりが自主的かつ積極的に取り組んでいます。

品質基本理念/品質行動方針

環境基本理念/環境行動方針

RTS基本理念/RTS行動方針

詳しくはこちら >> <https://shinwa-eco.com/permission#anchor02%E3%80%80>



CSRの重要課題

事業領域におけるリスクと機会を洗い出し、リスク低減に必要な取り組みを抽出したうえで、「環境」「安全」「社会」の3つをCSRの重要課題としています。



環境

循環型社会の実現へ向け、環境保全に貢献する企業へ

CO₂排出抑制などの環境への配慮と、廃棄物再資源化などの事業を通じ、持続可能な社会の構築に貢献していきます。



安全

社会的責任を全うし、お客様へ安全で安心なサービスを

労働災害ゼロを安全活動のミッションとして、安全・安心に働ける環境づくりを推進していきます。



社会

企業と従業員そして地域の持続的な成長をめざして

多様な価値観を持った従業員が安心して働ける職場環境をつくとともに、地域社会と協働して生活環境の保全に努めていきます。

SDGsアンビションズ

当グループは、産業廃棄物処理事業を中心に、再生可能エネルギーやエネルギーの効率的利用を推進する事業など、循環型社会(サーキュラーエコノミー)を形成するための中核的な役割を担っています。

当グループの強みを活かし、挑戦的な目標を立てて取り組もうと、2020年11月に「新和環境SDGsアンビションズ(ambitions)」を策定しました。

※各アンビションズに対応した詳しい取り組みについては、p7-8で紹介しています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

策定プロセス

当グループは、バリューチェーン全体でSDGsの17の目標と169のターゲットに対してどのような影響を与え、どのような貢献ができるかを分析しました。そのなかで特に密接に関係し重視するSDGsを選別し、2030年の目標を設定後、それぞれのKPIと目標値を設定しました。



新和環境が取り組むSDGs



関連アンビション

- ① バイオマス発電プラントを3基以上稼働する
- ② 地域の木質廃材由来の木チップすべてのリサイクル化に貢献するために2030年までに木質廃材累積12万t以上の処理を実現する
- ③ 水素製造の安定運営を実現し、水素製造プラントを3基以上稼働する
- ④ 再エネを推進し新たなニーズに対応した事業を実現する

2024年度に実施した取り組み ● ガス化反応器の改善 ● 共同研究成果発表会の実施(2024.4)



関連アンビション

- ⑤ 社会のゼロエミッション化に向けて、自社で取り扱う産業廃棄物における埋立処理施設への排出量を減少させ、リサイクル率を95%以上にする

2024年度に実施した取り組み ● 廃棄物分別工程におけるRPFおよび木チップの製造 ● 埼玉リサイクルセンター第四事業所開設計画



関連アンビション

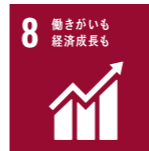
- ⑥ 自社の交通事故死傷者数をゼロにし、地域における交通事故死傷者数の減少に貢献する

2024年度に実施した取り組み ● 安全衛生会議の実施 ● 全国安全週間の取り組み実施

関連アンビション

- ⑦ 自社施工現場のアスベスト飛散事故をなくし、健康被害者をなくす

2024年度に実施した取り組み ● 安全大会の実施(2024.7) ● 協力業者会の実施



関連アンビション

- ⑧ 自社の労働災害による死傷者数をゼロにし、地域における労働災害死傷者数の減少に貢献する

2024年度に実施した取り組み ● 全国安全週間の取り組み実施 ● 安全衛生会議の実施

関連アンビション

- ⑨ すべての従業員が暮らしにも仕事にも充実した日々が送れる就業環境を実現する

2024年度に実施した取り組み ● 奨学金返済支援制度の継続 ● 社会人大学院進学制度(2人目が在学中)



関連アンビション

- ⑩ すべての人々がより良い社会づくり、環境づくりに高い関心を持ち、地域や社外の関係者と積極的な連携を行う

2024年度に実施した取り組み ● 災害協定の締結(吉川市、越谷市、野田市、松伏町、草加市、八潮市) ● クリアソン新宿 国立競技場開催試合協賛(2024.11) ● 吉川市商工まつりへの参加(2024.11)

CSR推進体制

当グループは事業を通じたCSRへの取り組みを推進し、継続的な改善を図るために組織的な体制を構築しています。2020年、これまでグループ各社で行われてきた社会的な活動をグループ全体のCSR活動として明確に位置づけるため企業理念を一新するとともに、CSR委員会の設置を進めてきました。CSR委員会はCSR担当者と各部門選任者で構成され、当グループのCSR活動の協議・推進・立案を主導しています。また、推進に関わる重要事項については部門長会にて決議されます。



SDGsアンビションズの進捗

	新和環境SDGsアンビションズ (2030年までに当グループが実現する社会・環境への貢献)		SDGs	SDGsアンビションズを実現するための取り組み			KPI (進捗把握の指標)	2030年までの実現目標	2024年度実績	2024年度に実施した取り組み
	関連する事業	分野		主な取り組み						
環境	① バイオマス発電プラントを3基以上稼働する	再生可能エネルギー事業	7 再生可能エネルギー	自家発電	バイオマス(廃材利用)発電設備の新規建設による発電量の増大	バイオマス発電プラント設置数、総発電量	バイオマス発電プラント設置数:3基以上 総発電量:80GWh以上 (埼玉RC 42年分の電気使用量)	バイオマス発電プラント1基設置 ※試運転段階	●ガス化反応器の改善 ●共同研究成果発表会の実施(2024.4)	
	② 地域の木質廃材由来の木チップすべてのリサイクル化に貢献するために2030年までに木質廃材累積12万t以上の処理を実現する			自家発電	バイオマス(廃材利用)発電設備の新規建設に伴い、木質廃材の投入量を増大させる	木質廃材投入量	木質廃材投入量:119,880t以上			
	③ 水素製造の安定運営を実現し、水素製造プラントを3基以上稼働する			水素製造	安定的な水素製造の技術を確立し、水素製造プラントの設置と運営を行っていく	水素ステーション/設置数 総水素製造量	水素ステーション/設置数:3基以上 総水素製造量:53,022,060Nm以上 (水素自動車MIRAを421万回満タンにできる)			
	④ 再生エネを推進し新たなニーズに対応した事業を実現する			オープンイノベーション	「電気・熱・水素・炭」などの再生エネ創出の過程で生まれる新たなニーズに対応するため、研究機関、関連企業と連携した共同開発を進め事業化をめざす	事業化の進捗段階	事業化を実現している、あるいは事業化のめどをつけて事業立ち上げを進めている段階			
	⑤ 社会のゼロエミッション化に向けて、自社で取り扱う産業廃棄物における埋立処理施設への排出量を減少させ、リサイクル率を95%以上にする	産業廃棄物処理業	12 資源循環	分別提案 中間処理 再資源化	顧客に対して、廃棄物発生段階での分別を提案、促進し、最終的な廃棄物量を削減する 人力・重機・機械での高精度な分別・処理により、高効率リサイクルを行い、最終処分場(埋立)への排出量を削減する 1. 廃プラ、紙、木、繊維を原料にRPFの製造を推進する 2. 木くずを破砕した木チップの製造を増やし、発電施設などで燃料として使用する	●リサイクル率(%) (マテリアル・サーマル・エミッション・減容の比率) ●搬入量(m) (埼玉RC・千葉RC) ●搬出量(m) (埼玉RC・千葉RC) ※RC:リサイクルセンター	リサイクル率95%以上 ※n数量にて算出	●リサイクル率 96.8(%) ●搬入量(m) (埼玉RC・千葉RC) 埼玉RC:275,658 千葉RC:101,778 合計:377,436 ●搬出量(m) (埼玉RC・千葉RC) 埼玉RC:187,329 千葉RC:59,064 合計:246,393	●廃棄物分別工程におけるRPFおよび木チップの製造 ●埼玉RC第四事業所開設計画	
安全	⑥ 自社の交通事故死傷者数をゼロにし、地域における交通事故死傷者数の減少に貢献する	全社	全社	社有車	交通事故防止対策 ① 安全設備(システム)の導入 ●アルコールチェック・ドライブレコーダー・デジタルタコグラフ ●車両のメンテナンスおよび入れ替え ② 従業員教育(交通安全思想の普及徹底) ●配車・班長ミーティング実施・ヒヤリハットの報告 ●運転記録動画映像による不安全行動のチェック・運転記録証明書の確認	自社における交通事故による年間死傷者数	交通事故年間死傷者数0人	交通事故 年間死亡者数0人、年間負傷者数3人	●安全衛生会議の実施 ●全国安全週間の取り組み実施	
	⑦ 自社施工現場のアスベスト飛散事故をなくし、健康被害者をなくす	アスベスト除去工事業	3 安全な人と健康な社会	調査分析 施工計画 除去工事	アスベストの含有有無特定 アスベストの健康被害は潜伏期間が長く15年から40年と長期にわたる。分析・調査の精度を高め、適正な対応により未来のアスベストによる健康被害者をなくす 適正な施工計画の確立 アスベストを使用した建物解体工事や処理において、発注者・施工事業者・官公庁などとの調整を行い、適正な施工計画を立てる アスベストの飛散・暴露防止(作業員・第三者)・作業品質の向上 施工における大気への飛散、作業員・第三者への暴露を防ぐため、すべての大気汚染防止法(大防法)届出作業において、石綿除去作業中の敷地境界における石綿繊維を、大防法の基準値からさらに10倍厳しくした1f/ℓ以下にする	大防法届出現場数における1f/ℓ以下の達成現場数比率100%を継続する ※大防法の基準は10f/ℓ未満	達成率100%	大防法届出対象現場25件にて達成率100%を継続	●安全大会の実施(2024.7) ●協力業者会の実施	
	⑧ 自社の労働災害による死傷者数をゼロにし、地域における労働災害死傷者数の減少に貢献する	全社	8 働きがい、持続可能な成長	全社	安全衛生	職場環境の改善・作業事故防止 以下の活動を通じて従業員の作業環境向上を促進させる ① 工場における取り組み ●新和環境の3S活動・工場安全大会・安全衛生会議・工場設備会議・現場パトロール ② 工事における取り組み ●建築事業部安全大会・協力業者会(重要事項周知、協力業者からのパトロール報告) ●事業主パトロール(事業主代行/パトロール)	労働災害件数	労働災害件数0件	労働災害件数(2023.12~2024.11) 5件	●全国安全週間の取り組み実施 ●安全衛生会議実施
社会	⑨ すべての従業員が暮らしにも仕事にも充実した日々が送れる就業環境を実現する	全社	8 働きがい、持続可能な成長	全社	人事	ワーク・ライフ・バランスの推進 生産性向上による効率的な働き方が仕事の質を向上させ、従業員の仕事と生活をより充実したものにすると考え、勤務時間管理の徹底や有給休暇取得の促進、従業員のライフスタイルに応じた働き方の選択幅の幅を増やすことなど、ワーク・ライフ・バランスの充実を推進する	有給休暇取得率	有給休暇取得率100%	有給休暇取得率(2023.4~2024.3) 64.4%	●奨学金返済支援制度の継続 ●社会人大学院進学制度(2人目が在学中)
	⑩ すべての人々がより良い社会づくり、環境づくりに高い関心を持ち、地域や社外の関係者と積極的な連携を行う	全社	17 パートナシップで社会を良くする	地域貢献 オープンイノベーション	1. 地域活動への積極的な参加を推進する 吉川工専工業会・環境部会での活動 ●環境パトロール・定期清掃・交通安全啓発活動 ●工専夏祭り・市民祭り・なまの里マラソン 2. 災害協定への協力を継続し、災害発生時に迅速な対応ができるように準備する ●吉川警察署との災害協定・三郷市との災害協定・千葉県災害廃棄物の運搬回収および処理協力 ●災害廃棄物処理支援研修会の参加 異業種、研究機関などとのパートナーシップによりオープンイノベーションを実現する	パートナーシップにより企業価値向上に貢献したと認められる年間のイノベーション数の2030年度までの累積数(2021年度より起算) 評価基準 社外の組織あるいは個人とのパートナーシップにより、以下のいずれかに該当した場合を企業・社会・環境価値向上に貢献したイノベーションと認める。 ① 既存事業のパフォーマンス、サービスの改善に結びついたもの ② 新規事業開発の重要な技術、サービスとなったもの ③ 自社の労働環境、安全性、コストの改善に寄与したもの ④ 自社の社会貢献活動(協定類は毎年改めてカウントする)	年間イノベーション累積数 130件の実現	年間イノベーション数 62件	●災害協定の締結(吉川市、越谷市、野田市、松伏町、草加市、八潮市) ●クリアン新宿 国立競技場開催試合協賛(2024.11) ●吉川市商工まつりへの参加(2024.11)	

3事業従業員座談会

環境産業のパイオニアとして、 次の50年で「総合力」を磨き上げる。

2024年で創立50周年を迎えた新和環境。社会基盤を支える産業廃棄物処理事業を軸に、有害物質等対策工事業、再生可能エネルギー事業にも取り組んでいます。
3事業の社会的意義や今後の展望について、それぞれの事業部の従業員が語りました。



産業廃棄物処理事業
経営企画部 事業開発グループ

佐久間 龍正

2011年入社。リサイクルセンターでの管理業務を経て、現在は福島での最終処分場開業準備に携わっている。

再生可能エネルギー事業
経営企画部 再エネ推進グループ

遠藤 好弘

医療系プラントの設計を経て、2020年に入社。吉川再生可能エネルギーセンターのテスト稼働や改善工事を担当。

有害物質等対策工事業
建築事業部 第1工事グループ

山口 晴大

2022年入社。アスベスト除去工事の施工管理として、現場の品質管理や安全管理に従事。

“ これまでに携わった仕事を
教えてください。また、その社会的意義に
ついてどのように考えていますか。 ”

佐久間 入社以降、産業廃棄物処理に携わっており、現在は2025年度に福島で開業予定の最終処分場の開業準備を行っています。その前は、埼玉・千葉のリサイクルセンターで、廃棄物の差配や従業員の労務管理といった運営全般に携わってきました。リサイクルセンターには建設現場などから、木くず、金属、廃プラスチックなどが混ざった状態の廃棄物が搬入されます。廃棄物を高精度で分別し、リサイクルや焼却、専門業者への依頼を行い、最終処分する廃棄物の量を最大限減らすことがリサイクルセンターの役割です。私は、産業廃棄物処理事業自体に意義があると考えています。当社では新しい建物や大規模建築の工事、都心の再開発などで出た建設系の廃棄物を主に扱っています。東京オリンピックの会場解体からの廃棄物を扱ったこともありました。そういった廃棄物が目の前で分別され、処分場や再生リサイクルへ流れていく様子を見るのは感慨深いですし、我々の仕事が社会に貢献していることを実感します。

山口 私はアスベスト除去工事の施工管理として、改修や解体現場での品質管理や安全管理を行っています。“負の遺産”ともいわれるアスベストを除去し、周辺地域への飛散や環境汚染を起ささないための仕事です。佐久間さんが「産廃業自体に意義がある」とおっしゃっていましたが、同じように私もアスベスト除去工事業自体に社会的意義があると考えています。現場に配属されて改めて知ったのですが、アスベストはありとあらゆるところに使われており、何も知らないで解体をすると飛散のリスクがかなり高いです。改修工事では、アスベストの除去をしなければ次の工事工程に移ることができませんので、現場では従業員一同、使命感を持って作業しています。

遠藤 私は吉川再生可能エネルギーセンターで、プラントのテスト稼働の計画や、基本設計の改善工事計画に携わっていま

す。吉川再生可能エネルギーセンターがめざすのは、建築廃材から作成した木質チップを原料に、電気・熱・水素・炭などのエネルギー源を創出し、リサイクルセンターでの使用や売電につなげていく「産業廃棄物の地産地消」です。その考え方が個人的には非常におもしろいですし、意義もあると感じています。また水素エネルギーは全国的に注目されており、木質チップからのエネルギー化に取り組む企業は多いです。当社のプラントでは水素ガスを1か月連続して発生させ続けることができるようになったのですが、安定的に稼働して成果が出ている企業は全国的にもまだ少ないので、水素に興味を持っている企業から注目していただいているとも感じています。

“ 新和環境が50年間事業を続けることが
できた要因をどう考えますか。 ”

佐久間 真剣に事業に取り組む従業員が多いことが要因の一つだと思います。当社には環境に貢献する仕事を志望して入社した従業員も多く、実際にそれができる環境があります。



山口 私も同じように感じています。アスベスト除去工事では同業他社と同じ現場で作業をすることもあり、見比べて感じるの、現場の方々が真剣に仕事に取り組み、会社として技術を磨いてきたからこそ、仕事のクオリティが他社に負けていないのだということです。ゆえに多くのお客様に選ばれているのだと思います。

遠藤 再生可能エネルギー事業は立ち上げから5年の新しい事業ですが、諦めずに続ける気概を企業文化として感じています。事業として利益貢献はまだまだですが、プロジェクトが打ち切りにならずに続けさせてもらっているからこそ、今の成果まで辿り着くことができました。だから何としてもお客様をはじめ社会から評価されるよう、形にしたいという思いがあります。

“次の50年では、新和環境にどのような企業になってほしいと考えますか。”

山口 建物の建て替えサイクルを考えると50年経てばアスベストはおおむねなくなっていると思います。除去工事の役割を終



えた時には、ほかの有害物質なのか、あるいは別の何かなのかはまだわかりませんが、新事業に取り組む姿を想像しています。

遠藤 そうですね、今後も新しいチャレンジで社会に貢献する企業であり続けることを私も期待しています。再生可能エネルギー事業でいえば、「産業廃棄物処理事業をメインとする企業が、廃棄物を利用したエネルギープラントをつくる」という発想そのものに価値があるので、再生可能エネルギーへの国からの需要に応え、この挑戦を続けていけたらと思います。現在は木質チップを燃やした排ガスからの電気、熱、水素などの創出に取り組んでいる段階ですが、今後は例えば創出した水素ガスを起点に新しい取り組みを始めたり、もう少し色々な物質を再生できるようにプラントの設計を拡張したり、木質チップ以外のものからの再生可能エネルギー創出をめざしたりと、廃棄物への付加価値創出にいろいろ取り組んでいけたら素敵だと思います。

佐久間 私も同じように、廃棄物に付加価値を付けて環境に貢献する企業になっていけたらと感じています。当社の根幹が中間処理業であることは50年間変わっていませんが、事業の運営方法は時代に合わせて変化してきました。廃棄物の

仕分け後、焼却・埋め立てしか選択肢がなかった時代から、リサイクルという道をあゆみ、今ではCO₂の排出量や環境への影響を重要視する時代に変化しています。今後もリサイクル品目の増加、廃棄物の種類の変化、規制強化などが進んでいくと考えられますが、当然当社も時代に合わせて変化を続けていかなければなりません。また建物の長寿命化により解体までの期間がどんどん長くなっていき、今後はリサイクルへの循環も増加しますので、廃棄物自体が減っていくことになるでしょう。その中で我々の立ち位置も、産業廃棄物処理業から環境産業に切り替わっている過程にいますのだと感じています。

“次の50年に向けて、会社として取り組むべきことや、その中でご自身の役割について教えてください。”

山口 世の中ではデジタル化が進んでいますが、私に関わる現場は技術的に人の手や判断が必要であり、デジタルへの置き換えは今の技術では難しいです。一方で業界的に、現場は人手不足や高齢化が課題となっていますので、そういった課題に会社を挙げて取り組んでいく必要は感じています。自分の役割としては、まずはアスベスト除去工事という目の前の仕事に真摯に向き合っていくことが第一ですね。入社3年目なので、まだ目の前の仕事で精一杯ですが、ベテランの諸先輩方のように現場で1から10まで自身でできるように成長したいと思っています。

遠藤 再生可能エネルギー事業では、現在は自社のプラントを設計し稼働させていますが、ゆくゆくは外部へのプラント提供を目標としています。現在のプラントは2~3週間の運転ごとに、その都度点検・メンテナンスをしていますが、外部へ提供するためには、長期連続運転が可能で、点検・メンテナンスも不要なレベルまで性能を向上させる必要があります。外部への提供にあたっては増員なども必要になってきますが、まずは



自信を持って他社に売り込めるレベルまでプラントの性能を高めていきたいです。

佐久間 産廃業に関しては、時代とお客様の要請に合わせて今後も変化を続けていく必要があるというのは先ほどお話ししたとおりです。具体的な施策としては、環境への対策として中間処理の過程を見直しCO₂の排出量を抑える、リサイクル率を上げて最終処分となる廃棄物を減らす、という2面の対策をさらに進めていく必要があります。またどうしてもリサイクルできない廃棄物は現状では他社の最終処分場に持ち込んでいますが、当社では今まさに福島県に自社の最終処分場を建設中で、私も開業に携わっているところです。自社の処分場を持つことで、排出量や処分費を自分たちで管理できるようになり、よりフレキシブルに、より多くの廃棄物を受け入れることができるようになりますので、会社としてのさらなる成長につながります。産業廃棄物処理事業をメインに、アスベスト工事や再生可能エネルギー事業などに業界の先陣を切って取り組んでいる点が当社の強みです。総合力を活かし、環境産業のパイオニアとして次の100周年に向けて皆でがんばっていかれたらと思います。



産業廃棄物処理事業での取り組み



事業概要

産業廃棄物の収集・運搬から中間処理、再資源化、焼却を行っており、将来的には最終処分まで一貫したサービス提供をめざしています。中間処理施設である埼玉と千葉のリサイクルセンターで各種廃棄物を高精度に分別し、減量・無害化するほか、再資源化することでリサイクル率を向上し、環境負荷を低減しています。さらに、焼却の際にはその熱をバイナリー発電に利用するなど、高度な技術で循環型社会の実現に寄与しています。

産業廃棄物処理事業の強み

- 130台以上の多様な車両を保有し、排出状況や収集場所に適した車両手配による効率的な収集・運搬が可能。
- 収集した廃棄物を手選別・重機選別・機械選別と段階を重ねて分別。RPF*や木チップに変換し、リサイクル率の高さを維持。カーボンニュートラルや再生可能エネルギー社会へも寄与。
- 吉川再生可能エネルギーセンターとの連動による次世代型リサイクルセンターとしての稼働で、循環型社会の実現に貢献。

※RPF:石炭代替燃料。Refuse Paper & Plastic Fuelの略。

2024年度実績と今後の方針

2024年度も、2030年目標である「リサイクル率95%以上」を維持しました。当社に搬入される廃棄物は50%程度が混合廃棄物であり、それを埼玉と千葉のリサイクルセンターで分別する過程でRPFの生成や木チップの製造を行い、燃料へ再生することで、高いリサイクル率を維持しています。

2025年春から埼玉リサイクルセンター第四事業所も開設し、荷下ろし時間の短縮や受け入れ量の増加など業務改善を図っていきます。さらに、現在試運転中の吉川再生可能エネルギーセンターの本格稼働を2025年末に見込んでおり、電力の自立とCO₂削減をコンセプトとした新たなサービスの提供をめざします。

関連アンビション

- 5 社会のゼロエミッション化に向けて、自社で取り扱う産業廃棄物における埋立処理施設への排出量を減少させ、リサイクル率を95%以上にする

2024年度実績

リサイクル率
(マテリアル・サーマル、
エミッション、減容の比率) **96.8%**

強みを活かした環境・社会・安全への取り組み

》 分別サポート

工事時期や現場状況に合わせ、分別品目・容器などを選定する「分別ヤード計画」の提案など、排出事業場から排出する前段階できちんと分別ができるようサポートを行っています。当社従業員による分別講習会の実施や分別ヤードに掲示する看板作成も行います。

また、リサイクルセンターの施設見学を兼ねた産業廃棄物に関する講習も実施しています。



分別ヤード



産業廃棄物に関する講習

》 再資源化

木くずを木質バイオマスチップとして加工・製造し、吉川再生可能エネルギーセンターに提供しています。そのほか、木チップは再生エネルギー事業者にも販売・提供しています。2030年までに、関東地域の木質廃材由来資源すべてのリサイクル化をめざします。

紙くず、木くず、廃プラスチック類、繊維くずについて、焼却・埋め立てをするのではなく、それらを主原料として、石炭に匹敵する燃料であるRPFを生成しています。また、昨今のエネルギー不足の影響により、生成したRPFの需要が拡大しており、製紙会社やバイオマス発電施設などへ販売・供給も行っています。



》 サーマルリサイクルの実現

グループ企業である(株)東海クリーンは、焼却処理によって廃棄物を減容するだけでなく、焼却時に発生した未利用熱エネルギーを使用してバイナリー発電を実現しています。廃棄物を無駄にすることなく資源の有効活用を促進しています。



》 埼玉リサイクルセンター 第四事業所を開設

2025年春に、積替え保管施設として埼玉リサイクルセンターの付近に第四事業所を開設予定です。

荷下ろし時間の短縮や受け入れ量の増加など、業務改善を目的として運営します。



第四事業所

搬入量
(埼玉RC・千葉RC) **377,436 m³**

搬出量
(埼玉RC・千葉RC) **246,393 m³**

再生可能エネルギー事業での取り組み



事業概要

建築廃材などの未活用木質を原料に、電気・水素・一酸化炭素・熱・炭に変換することで、エネルギーや化学原料としての付加価値を生み出す事業です。埼玉リサイクルセンターに隣接する吉川再生可能エネルギーセンターにおいて、運転ノウハウの蓄積と改善・改良を推進し、自社工場への電力供給および炭の活用を早期に実現すべく、開発を進めています。

再生可能エネルギー事業の強み

- 二段ガス化方式を採用し、一段目の炭化プロセスでタールの除去が可能。
- 運転中の補助燃料が不要なプラントの長期稼働が可能。
- 建築廃材にエネルギー、化学原料という付加価値を創出。

2024年度実績と今後の方針

当社は、2019年10月9日に設立された「再エネ100宣言 RE Action」に発足時の参加企業として参加しています。2040年をめどに本社や支店、および各リサイクルセンターで使用する電力を100%再生可能なエネルギーに切り替えるという目標を掲げています。

2024年度は、吉川再生可能エネルギーセンターにおいて、プラント安定運転のための設備改善やガス化反応器の性能向上を目的とした設計を進めるとともに、発電へ向けての設備改善を進め、ガスエンジンによる発電を達成しました。

今後は、この設計をもとに設備改善を行い、長期連続運転および自社工場への電力供給の実現をめざしていきます。



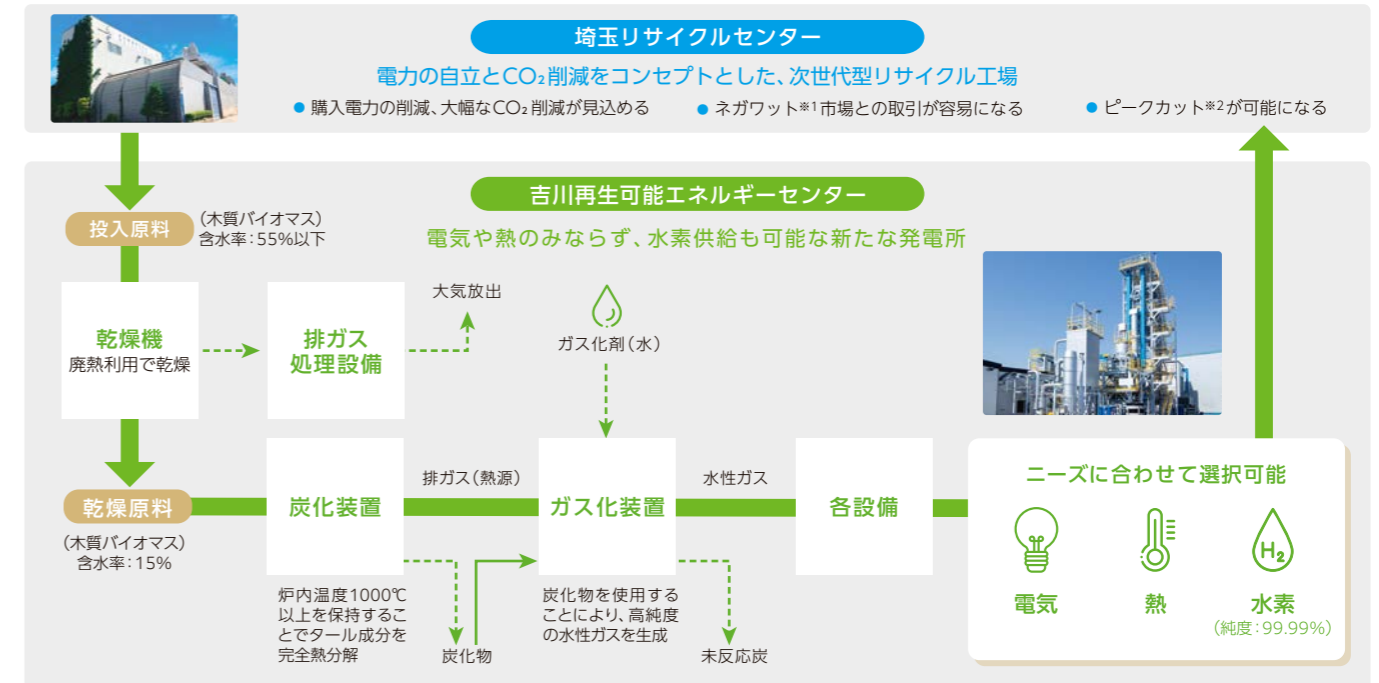
関連アンビション

- 1 バイオマス発電プラントを3基以上稼働する

2024年度実績

バイオマス発電プラント **1** 基設置 ※試運転段階

バイオマスエネルギーシステムのフロー図



※1: ネガティブのネガと電力の単位ワットを合わせた造語で、電力の使用量を抑制することによって得られた余剰電力のこと
 ※2: 電力の使用を抑えることや省エネルギー機器・再生可能エネルギー設備を用いることで、電力の使用量そのものを低減させる取り組み

強みを活かした環境・社会・安全への取り組み

共同研究の推進

吉川再生可能エネルギーセンターでの開発を進めるにあたり、2017年頃から大学との共同研究や委託研究を積極的に進めています。再生可能エネルギー事業の推進および「電気・熱・水素・炭」

など再エネ創出の過程で生まれる新たなニーズへの対応を進めています。

2024年4月には、共同研究成果発表会を行いました。各大学と行っている5件の共同研究について各教授より報告・説明をいただき、参加者間でさまざまな情報共有や意見交換を行いました。

2024年度共同研究実施

大学名	大学側代表者	研究題目
名古屋大学	成瀬教授	水蒸気による炭化物の流動層ガス化と熱力学平衡計算
日本工業大学	内田教授	建築廃材由来木炭の電炉利用に関する冶金学的な評価
大阪産業大学	川野教授	バイオマス発電用ガスエンジンの高効率化に関する基礎研究
その他の契約など ・九州大学、渡邊教授 ・中部大学、二宮教授 ・鹿児島大学、甲斐名誉教授		

共同研究成果発表会2024

- 1 建築廃材由来木炭の電炉利用に関する冶金学的な評価 (日本工業大学 内田教授)
- 2 木質バイオマスの炭化プロセスに関する共同研究 (九州大学 渡邊教授)
- 3 バイオマス発電用ガスエンジンの高効率化に関する基礎研究 (大阪産業大学 川野教授)
- 4 炭の水蒸気改質反応装置設計に関する研究 (鹿児島大学 甲斐名誉教授)
- 5 流動層を用いた建設廃材由来チャー(炭化炭)の水蒸気ガス化実験(名古屋大学 成瀬教授)

有害物質等対策工事業での取り組み



事業概要

アスベスト除去を中心にダイオキシン類・汚染土壌といった有害物質等の対策工事を展開しています。有害物質等対策を重要な社会課題と捉え、適正な分析調査、除去・除染を行っています。建物の改修・解体などに伴う健康障害と大気汚染の防止に寄与しています。

有害物質等対策工事業の強み

アスベスト除去工事

- 大規模解体工事や居ながら改修工事のアスベスト対策工事、外壁塗材の除去工事にも完全対応。
- S.D工法で建設技術審査証明も取得。
- 煩雑な計画書類の作成や役所との協議にも対応。
- アスベスト対応のスペシャリストによる図面・現地調査。

ダイオキシン類対策工事

- ダイオキシン類対策特別措置法などの法令に基づいた除染および解体方法の策定・施工に対応。
- 高圧洗浄による工法でアスベスト対策工事を含めたトータルな施工をご提案。

汚染土壌対策工事

- 土壌汚染対策法などの法令に基づいた汚染処理に対応。
- 土壌調査から役所対応、届出書類作成、処理までワンストップ対応。

2024年度実績と今後の方針

2024年度は大気汚染防止法の届出対象施工現場は25件で、そのすべての現場においてアスベストの大気中濃度1f/ℓ以下を達成。ダイオキシン類対策工事は2件、汚染土壌対策工事は8件の施工となりました。

自社施工現場においては事業主(代行)パトロールや現場担当者による自主点検パトロールを継続しています。また、協力業者にも各現場に対して「協力業者パトロール」を実施していただくことで、互いの情報を共有し、作業品質の向上を図りました。飛散事故ゼロを継続していくために、今後も各段階における取り組みの品質改善・向上を図り、事業を推進していきます。

強みを活かした環境・社会・安全への取り組み

》S.D工法(吹付けアスベスト粉じん飛散防止処理技術)

国土交通省の外郭団体である「(財)日本建築センター」より吹付けアスベストの除去工法「S.D工法」の建設技術審査証明を取得しています。吹付けアスベスト除去工事のスペシャリストとして、安全に処理を行うとともに、各種仕上げ材料で修復する環境改善工事を行っています。



》安全大会

現場作業に従事する際の安全意識向上を目的とし、協力業者および当社従業員が参加する安全大会を年に1回実施しています。安全講話をはじめ、優良協力会社や優良職長の表彰も行っています。



建築事業部



大阪支店

アスベストとは

アスベスト(石綿)は、耐熱性や耐火性に優れていることから1970年代から1990年代にかけて大量に輸入され、多くの建材製品や工業製品に使用されてきました。しかし、空気中に浮遊するアスベストを吸引することで石綿肺、肺がん、悪性中皮腫といった重大な健康障害につながる事がわかり、2006年に使用が全面的に禁止となりました。

現在でもアスベスト建材を使用した建築物や工作物が数多く残っていることが推測され、作業従事者だけでなく周辺住民も健康被害を受ける可能性があるため、適切な施工計画・防護措置をしたうえで除去工事を行っています。

ダイオキシンとは

ダイオキシン類は、主に廃棄物を焼却する過程で副産物として発生する、毒性の強い化学物質です。

ダイオキシン類が含まれる焼却灰・飛灰などを取り除いて適切に処分するため、当社では、それらが付着している焼却設備、集塵設備、煙道、煙突、建物などの除染工事を行っています。

汚染土壌とは

汚染土壌は、特定の有害物質(重金属や有機溶剤、農薬、油など)が、人体や環境に害をなす基準値を超えて含まれる土壌です。当社では、その土地を安全に使用できるように汚染土壌・埋設物処理を行っています。

関連アンビション

- 7 自社施工現場のアスベスト飛散事故をなくし、健康被害者をなくす

2024年度実績

大防法届出対象現場25件にて1f/ℓ以下の達成率

100%を継続

全社での取り組み

地域とのつながりを強化

地域社会との連携により、より良い社会と環境づくりを大切にしています。パートナーシップにより地域の保全・活性化に努め、社会に必要とされる会社であり続けていきます。



災害協定締結

近年激甚化している自然災害を踏まえ、これまでに吉川警察署(2019年3月)、埼玉県三郷市(2020年12月)、埼玉県吉川市(2023年8月)、埼玉県越谷市(2023年10月)、千葉県野田市(2024年1月)、埼玉県松伏町(2024年4月)、埼玉県草加市(2024年7月)、埼玉県八潮市(2024年8月)と災害協定を締結してきました。災害時には当社から運搬車両・建設重機・オペレーターを供給し、緊急人命救助および道路交通確保のための障害物の除去など、災害応急対策を円滑に遂行できるような体制を構築しています。



お祭りを通じた地域交流

地域の美化と住民との共生を目的に、吉川市中井・小松川エリアの企業で構成される「吉川工専工業会」に加入しています。地域交流により、当社を含む加入企業の事業推進への理解を深めてもらうため、さまざまなイベントに参加しています。2024年11月には市民交流センターおあしす(吉川市)で第45回商工まつりが開催され、吉川工専工業会として「ヨーヨー釣り」、当社として「わなげゲーム」の出店を行い、多くの子どもにブースで楽しんでいただきました。



2024年度実績

年間イノベーション数 **62**件


関連アンビション

- 10 すべての人々がより良い社会づくり、環境づくりに高い関心を持ち、地域や社外の関係者と積極的な連携を行う

スポーツを通じた地域振興

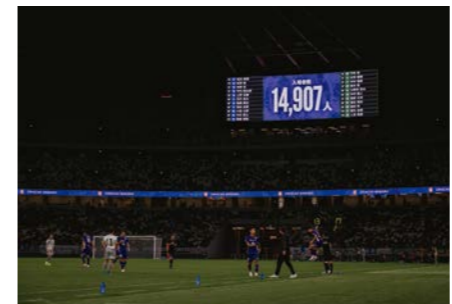
JFL(日本フットボールリーグ)所属のサッカークラブ「クリアソン新宿」と法人パートナー契約を締結しています。

2024年11月に、「明治安田『サッカーの日』マッチ」と題して国立競技場で開催された試合に協賛し、「夢パス@国立競技場試合 小学生・中学生無料招待」企画も実現。クリアソン新宿を通じて、新宿区内の多くの小学生・中学生を無料招待しました。



クリアソン新宿とは

クリアソン新宿はJFLに所属するサッカークラブです。新宿をホームタウンとして「サッカーを通じて、世の中に感動を創造し続ける存在でありたい」をミッションに活動しています。



JFL入場者数記録歴代3位の14,907人 (クリアソン新宿提供)



夢パスで多くの子どもを招待 (クリアソン新宿提供)



従業員で観戦応援

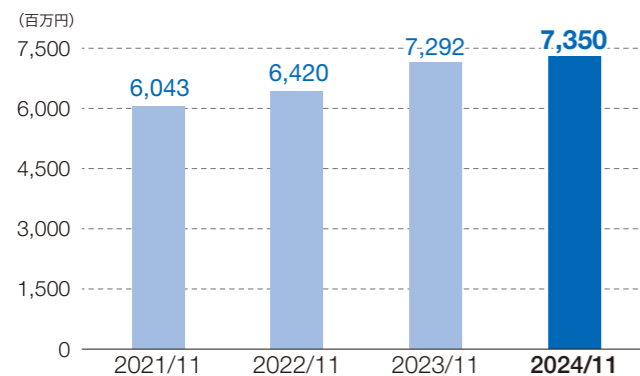
創立50周年記念式典

2025年1月に「新和环境創立50周年記念式典」を実施しました。「従業員への感謝を伝える」をコンセプトに、当グループ従業員とその家族など約350名が集まりました。記念動画の視聴や永年勤続表彰、各部門の紹介、ビンゴ大会など全員参加型のにぎやかな会となりました。

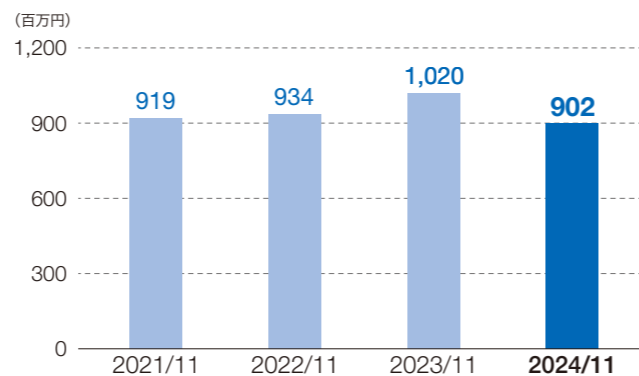


財務パフォーマンス

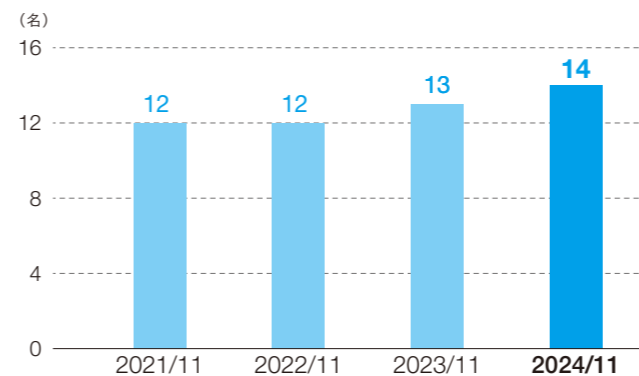
売上高



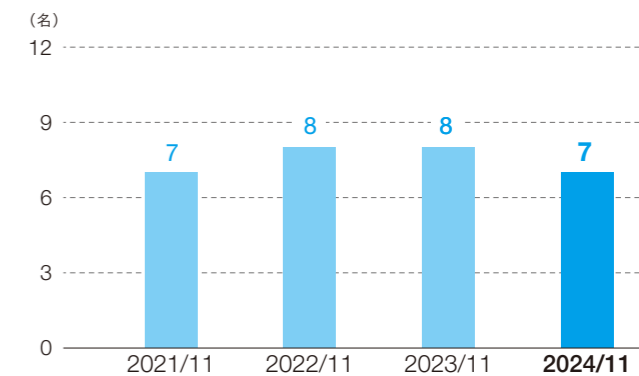
営業利益



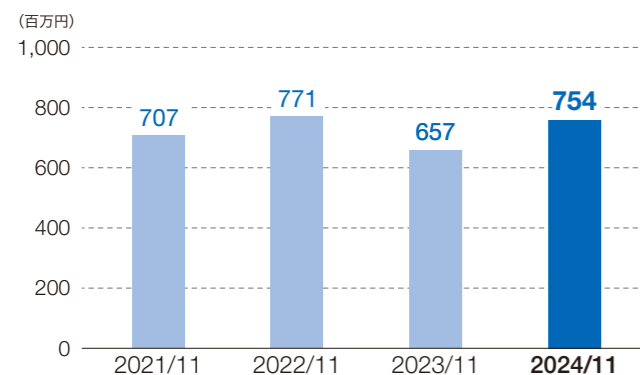
女性総合職の人数



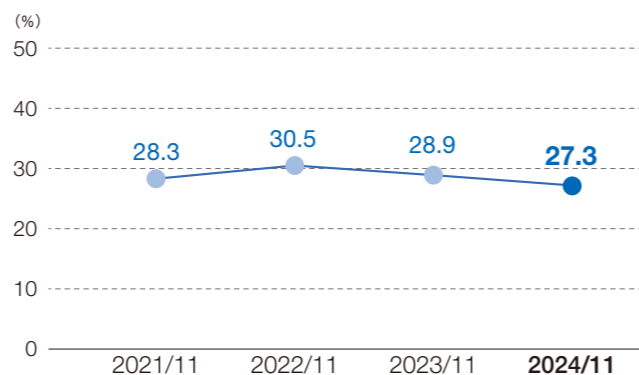
定年雇用者数



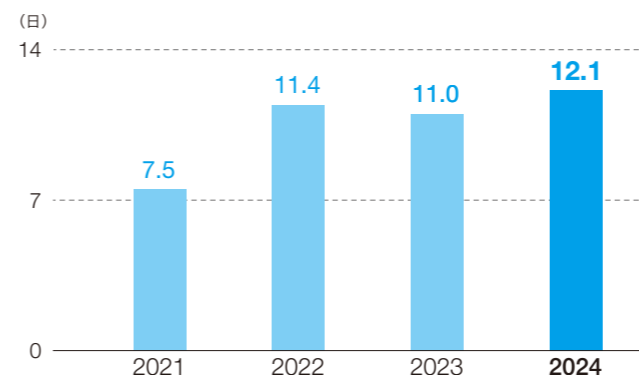
経常利益



自己資本比率



有給休暇の平均取得日数^{※2}



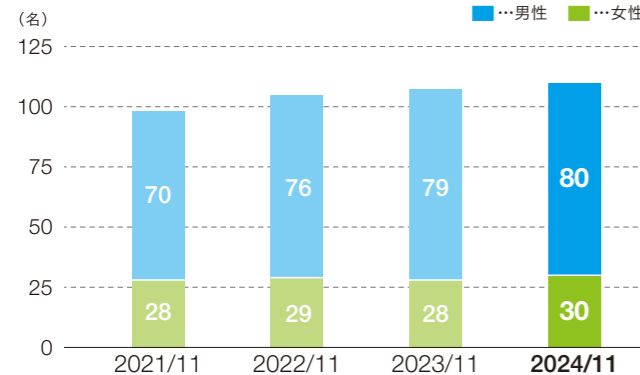
※2: 4月1日から3月31日を1年間として計算

育児休業休暇取得者数

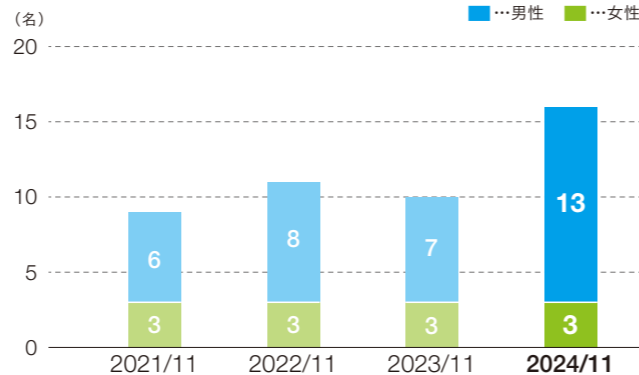


非財務パフォーマンス

従業員数

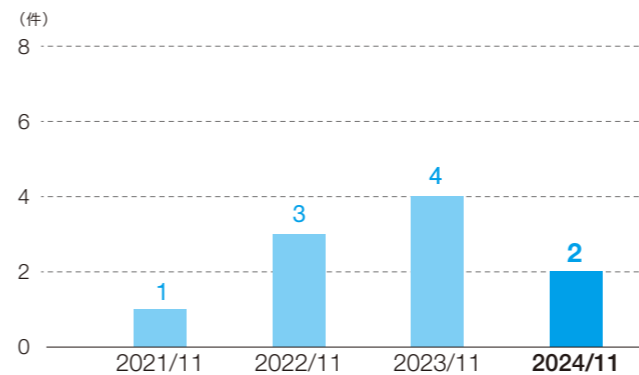


管理職数^{※1}



※1: 役員含む

休業4日以上労働災害発生件数^{※3}



※3: グループ会社を含む

産業廃棄物のリサイクル率

